



ごう どの か のう 河渡宿～加納宿

約 5.9 km

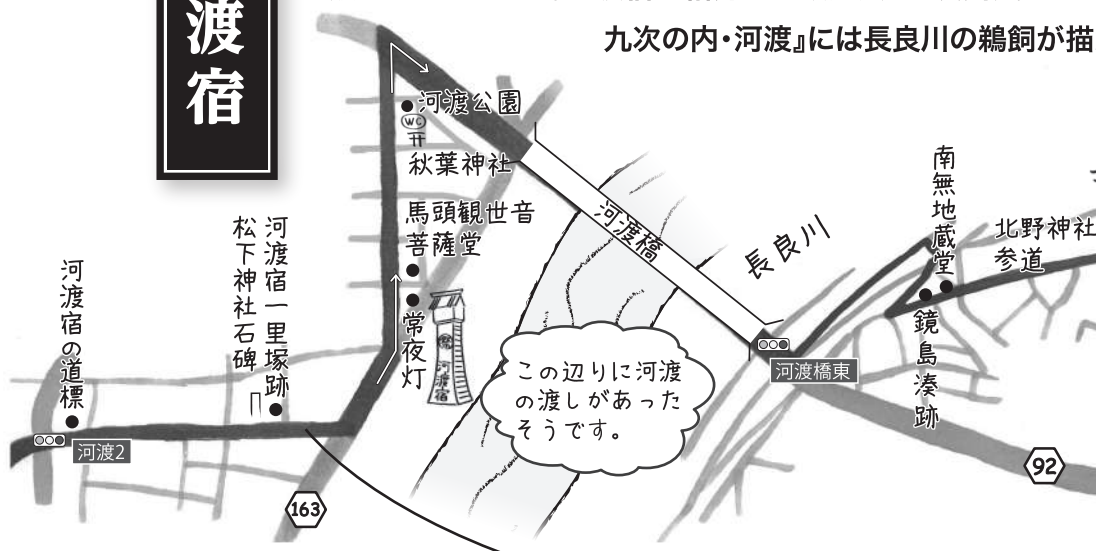
歩き旅

中山道ぎふ17宿とは？

江戸時代に整備された五街道の一つである中山道は、江戸と京都を結ぶ重要な街道で、全長135里32丁(約534km)に69の宿場が置かれました。そのうちの17宿、126.5kmが岐阜県のみ濃地方を東西に横断しており、今も往時の面影を色濃く残しています。その土地の歴史や文化、隠れた魅力の発見を楽しむ街道観光は岐阜県の誇るべき観光資源であるとして、平成25年2月に「岐阜の宝もの」に認定されました。

家数64軒、本陣1軒、脇本陣なし、旅籠24軒、人口272人と小規模な宿。長良川の渡しのための宿場町で、天候の悪い時には旅人が長逗留して賑わったそうです。河渡宿を紹介する歌川広重・渓斎英泉の『木曾海道六拾九次の内・河渡』には長良川の鵜飼が描かれています。

河渡宿



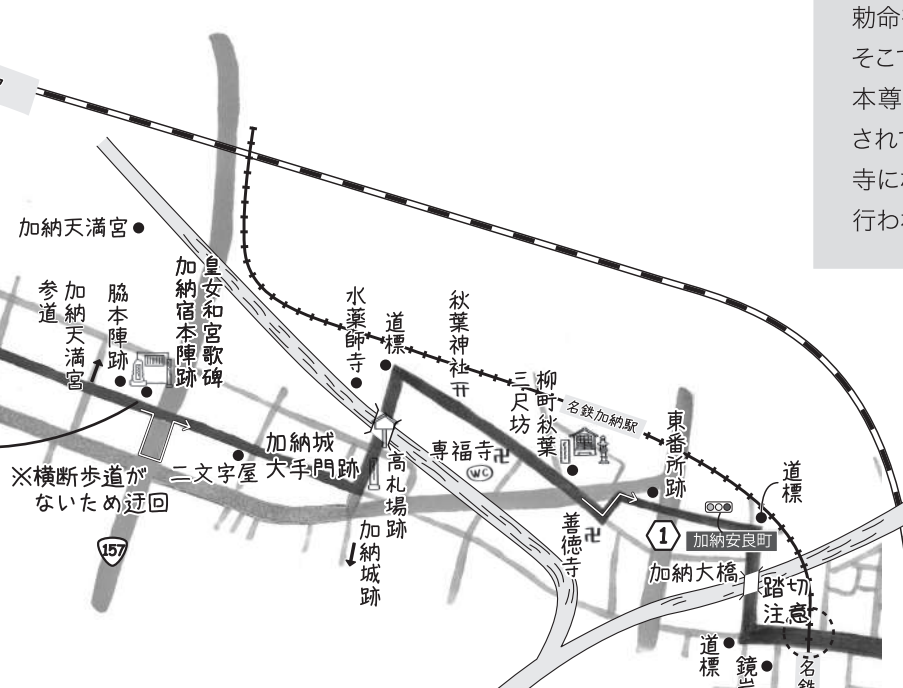
この辺りに河渡の渡しがあったそうです。

河渡宿一里塚跡・松下神社石碑

河渡宿は、土地が低く、雪や雨の時には泥沼のようになってしまいました。文化12年(1815)に洪水が起こり、時の代官松下内匠が宿中を五尺盛り土で上げ、家屋を移設。住民はこれを讃え、松下神社を建立しました。

多羅野八幡神社

八幡神社を中心に、西に秋葉神社、東に天満神社が祀られています。またこの辺りに「だらり餅」という名物を食べさせてくれる茶店があったとか。周辺には松並木があったそうで、旅人の休憩場所だったと思われます。



皇女和宮歌碑

遠ざかる 都とすれば 旅衣 一夜の宿も 立うかりけり
文久元年(1861)、10月20日に京都御所を出発した皇女和宮一行は、26日、加納宿本陣に宿泊されました。この地で、京がだんだん遠くなる様を嘆く歌を詠まれました。和宮直筆の歌として宮内庁所蔵の『静寛院宮御詠草』に残されています。

加納宿

慶長6年(1601)、徳川家康の命によって岐阜城が廃城になり、代わりに加納城が築城されました。城下町となった加納宿は、中山道69宿の中で5番目に大きい宿として栄えました。本陣、脇本陣、旅籠35軒、人口2,728人という加納藩の記録が残っています。本陣には和宮が降嫁の折に詠んだ歌碑があります。

Topics

乙津寺(鏡島弘法)

中山道から少しそれますが、この地の名刹・乙津寺は、天平10年(738)に行基が草庵を築いたのがはじまり。弘仁4年(813)、空海が嵯峨天皇の勅命を受け、秘法を用いて龍神に鏡をかざしたところ、桑畑に変わったとか。そこで鏡島と呼ばれるようになり、翌年、真言宗乙津寺を建立。現存する本尊千手観音像は平安時代前期の作。鎌倉時代の不動明王像も安置されています。その後、天文14年(1545)に改宗し臨済宗妙心寺派の寺になりました。「鏡島の弘法さん」として親しまれ、毎月21日には縁日が行われています。

